

2012年版

学長が新入生に薦める100冊の本

～九州～

No.	書名	編著者名	一言コメント
1	青春の門	五木寛之	「週刊現代」という女性風ではない週刊誌の連載を、当時勤務していた国立病院のベンチでチリと読んで次第に熱中した田川、飯塚を舞台にした長編小説。著者の近作「親鸞」につられて思出し読みました。私の青春・・・でもありました。
2	逃亡くそたわけ	絲山秋子	入院した精神病院の患者仲間と脱走し、ぼろ車で九州一円を走るだけの物語デス。女性の作家の作品は必ず一冊は読みますが、はじめ取っ付けなかったものの、博多弁を声を出して読めるようになって俄然面白い。
3	海と毒薬	遠藤周作	第二次世界大戦末、九州の大学であったおぞましい「事件」を題材とした小説。間もなく負けることが判ってきた戦争という異常事態の所為、あるいはそのような状況下の人間の狂気、それともいくつかの書評にあった「ドストエフスキの「罪と罰」風??
4	志賀島	岡松和夫	志賀島<シカシマと濁らない発音>には何度もまいりましたが、このあまり長くない小説を読んでは、見慣れた風景に違う趣を感じました。でも島までの美しい長い砂州<サス>の両側にガードが出来たりして、雰囲気ぶち壊し!!
5	思ひ出	北原白秋	明治期を代表する詩人小説家は柳川出身。記念館の生家で拝見するお姿は繊細な詩歌とは相容れないようなオン・ザ・サマ姿?もあって、ちょっと鼻白む思いもいましたが、何度も声に出して読んでみるべき美しい日本語。皆知っている「からたちの花」「べっか」...
6	万葉のころろ：筑紫路逍遙	榊晃弘	医学生時代は奈良。飛鳥にもよく参りましたが、その頃から、奈良(飛鳥時代)の前のわが国...卑弥呼の時代の日本は、evidenceは持ちませんが、地理的に九州と確信しておりました。その九州の万葉の香りが、美しい写真でよみがえっています。
7	どれくらいか愛情	白石一文	今の博多で実際にありそうでなさな話。博多言葉の細かい感触がもっと判るとより面白いのかも。同著者の「この胸に深々と突き刺さる矢を抜け」を読んだ時のシンドカット思いはこの本にもありますが、若い人には面白いのかも。
8	落日燃ゆ	城山三郎	東京裁判(調べて下さい!!)でA級戦犯7名中唯一人、死刑になった文官元総理/外相広田弘毅は福岡出身、大名小学校、修猷館高校卒。横暴な軍部と対決し戦争防止を目指しながら何事も言い訳せず従容<ジョウヨウ>と死を受け入れる姿、感動します。
9	銀河の雫	高樹のぶ子	社会でそれなりの立場にある、つまり分別はあるのですが抜き差しならなくなった大人のややこしい関係...恋愛を描いた西歐風小説とでもいいでしょうか、読みだしたらやめられなくなって、徹夜して終わりまで...
10	博多：町人が育てた国際都市	武野要子	2001年3月に福岡に転居して、最初に買った九州本は、これと露天温泉モノ。「博多」と「福岡」の違いは、大阪と堺にも通じますが、国際保健で実感した異文化が身近にあることを勉強しました。
11	リツ子・その愛 リツ子・その死	檀一雄	私世代には、「火宅の人」(調べて下さい!!)檀一雄ファンと云うよりリツコファンが結構いました。が、国際保健分野に入ってから再読して気付いたのですが、戦争時という「健康の危機」であり、その中の女性の自立でもありました。ちょっと深読みですが...
12	炭坑節物語：歌いつぐヤマの歴史と人情	深町純亮	昔、盆踊りと云えば炭坑節、そのルーツをたどった本。日本の近代化を支えた石炭とその産出でにぎわった街。深い地底の危険な仕事の後、人々は飲み唄ったのでしょうか。炭坑節に色々あるらしいですが、正調炭坑節も聞いたことがない...
13	人は愛するに足り、真心は信ずるに足る：アフガンとの約束	中村哲、澤地久枝	ドキュメンタリー第一人者澤地久枝が哲センセイに迫ります。旧知のお二人、少しお手伝いしましたが、淡々と語る哲センセイの真意を解き明かさんと迫る澤地さん!! お二人に共通する生き方として、赤十字にも通じる人道的思考が格調高く語られています。
14	地の底のヤマ	西村健	大牟田を生きるひとりの警察官の人生は日本近代化をけん引した石炭産業の歴史つまり日本の近代史で、かつ不審死した同じ職業の父の人生を描いたミステリー小説でもあり、行きつ戻りつ、どヒッドに記載された大牟田を彷徨しました。
15	サザエさん	長谷川町子	コメント無用と思いますが、著者長谷川町子氏は、佐賀県生まれ、福岡育ち...故にご一家は全員海産物的お名前だと思っておりますが...

No.	書名	編著者名	一言コメント
16	水神 上・下	帚木蓬生	江戸時代、筑後川の治水・洪水対策でなく農業用灌漑計画に命を掛けて5人の庄屋とその声に応えた下級役人の老武士。ペシャワール会中村哲先生が参考にされた山田堰の話でもあります。東日本大震災復興に立ち向かう日本人の魂と姿を見ます。
17	秋月記	葉室麟	秋月「藩」の政事マツリゴト、サムライの切合い、忍者活動ありのお家騒動物語。が、悪人風家老の真の心情、お家大事と結束した武士間の離反、さまざまな地位の人間の生き方は現代の組織論にも通じる。世界に先駆け種痘を行った緒方春朝も出てきます。
18	白連れんれん	林真理子	飯塚の炭鉱王伊藤伝右衛門と再婚した歌人柳原白蓮の宮崎龍介との駆け落ち古い言葉テスネ事件とその後を描いた伝記小説。華族とか平民・大いに時代的ですが、要は愛に身分年齢はない! 伝右衛門宅に立つとちょっとした感慨が浮かびました。
19	花と龍	火野葦平	明治時代末期、北九州若松に流れ着いた若い男女が、相当やくざな人々との義理と人情の交錯する中で成功して行く物語。著者葦平のご両親の実話ですが、その葦平の甥がペシャワール会の中村哲先生、何だか荒くれの人々が身近に感じられます。
20	廃市	福永武彦	一人称の回想の形で書かれた西洋風で複雑な、この長編小説は一回読んでもよく理解できませんでしたが、著者(現筑紫野市生まれ)の作風に何となく魅せられ、しばしば、処女作「塔」とか「草の花」と一緒に抱えていました。本格的文学の味。
21	おっしょい! 山笠	保坂晃孝	元博多祇園山笠振興会長で、土井流会長を5年間も務められた石橋清助氏への聞き書き。お祭りは参加しないとヤカマイだけ! ですが、この天下の祭りの歴史、準備や運営へのご苦労と地域の人々の関与がビビッドに語られています。
22	或る「小倉日記」伝	松本清張	小倉に赴任していた森鷗外が確かに書いたが行方不明の日記(「小倉日記」)の代わりに鷗外の行動記録を作ろうとする話、と云えば身も蓋もないが、障害者である主人公の葛藤と、事実を追い求める人間の執念を描いたものとして読むべき。
23	点と線	松本清張	同作家1冊が原則ですが例外。理由はこの作品に出てくる旧西鉄香椎駅舎と、その昔、たった一回だけですが、東京博多間の夜行特急「あさかぜ」に乗ったことで福岡に住んでから、再度、この小説を味わい深く読んだため、スマセン。
24	九州の蘭学：越境と交流	W・ミヒエル、鳥井裕美子、川島真人	特に医学史を網羅した江戸時代以降の日欧関係のまとめ。九州、長崎は江戸時代のわが国唯一の対外窓口だが、当時の日本人学者はそれまでとは異質な西洋近代科学とどう接し、また、来日西洋人は知的交流や技術移転にどう貢献したのかまとめられています。
25	半島を出よ	村上龍	北朝鮮特殊部隊の福岡侵入に始まるサスペンス。2005年の発売時、やっと馴染んだ場所のすべてを舞台に、政治やわが国をめぐる国際情勢不安定な現在を先取りした感もあるスリリングな内容。読み返してみたいが、何だか面白いはずまない世相。
26	画文集 炭鉱(ヤマ)に生きる：地の底の人生記録	山本作兵衛	見て下さい!!!そして田川の石炭博物館に行きましょう!!!
27	東京タワー：オカンとボクと、時々、オトン	リリー・フランクキー	著者リリー・フランクキーは本当にマルチ分野に才能をお持ちですが、小学中学校は現宮若市に在住。実態もマルチ人間で現代風なので、あまり馴染めないかと思って読み出しましたが、少々、影のうすいお父上も含め、興味深いご一家です。
28	望郷の道 上・下	北方謙三	著者の曾祖父母がモデル、新聞連載のはじめ、地元の歴史と思って読みだしましたが、古典的だが情と信義にあつい主人公とそのパートナーとなるオンパ俳優の、また、信念の固さと愛情の深さに打たれました。日本を創った人びとの話です。
29	佐賀のがばいばあちゃん	島田洋七	「がばい」とは「すごい」「とても」と云う意味だそうです、そのままの方が実在のサノバあちゃんのです。貧しく学歴がなくとも、溢れるばかりのピュアな愛情と人としてまもるべき道を態度で示せば、ちゃんと人はつのですね。・・・では大学の役割は??
30	次郎物語	下村湖人	未完の長編、第二次世界大戦から戦後にかけての次郎少年の生活史、全編を通読するのは根気を要しましたが、私が高校生だった頃までの若者世代に結構受けていました。今読むと、ウーン・チョット教育のお節介??
31	火城：幕末廻天の鬼才・佐野常民	高橋克彦	日本に赤十字という組織とその理念を導入したわれらが佐野常民侯は、とてもとても情にもろく、しばしば号泣されたそう。しかし、常民侯は、真の近代化とは何かを最も真剣に考えていた方。答えは、日赤佐賀県支部2階の講堂にある額を見よ!!
32	幕末維新と佐賀藩	毛利敏彦	日本の近代化の魁「サキガケ」として、技術的には最先端であったにもかかわらず、佐賀鍋島藩は明治維新には大きな役割を果たしていないように見える。しかし、明治政府の中の理念や仕組みを創った人々の中には佐賀出身が多い・・・何故??
33	百年佳約	村田喜代子	朝鮮渡来人による日本の焼物のルーツは慶長の役(調べて下さい)の際の連行者によります。寿衣(韓国の死者の衣類)をまとった百婆が自分の墓に腰掛けているシーンから始まるので面白いですが、ちょっとホームドラマ的。が、強制連行は現在の難民問題とも関係ある・・・

No.	書名	編著者名	一言コメント
34	にあんちゃん	安本末子	著者は私と同世代。両親の死、佐賀県の炭鉱町の貧しい生活の、小学生の日記をにあんちゃん(2番目のオニヤン)がまとめたもの。日本が近代化に向かう頃の貧困層の話ですが和製アンネの日記とも。何だか現在の世相とダブりますね、特に家族の絆と。
35	日赤の創始者佐野常民	吉川龍子	No.31「火城」が小説常民に対し、これは日本赤十字社の歴史としての常民候を追ったドキュメンタリー。本学の赤十字概論の副読本的書物ですが、明治維新後の新生日本を創った人びとが、西欧文化の何を吸収しようとしていたのかを汲み取って欲しい。
36	明日：1945年8月8日・長崎	井上光晴	通常、明日何が起こるか知らないから私たちは今日を安穩に生きられる。原爆投下前日の長崎の生活を描いた本書は、巨大地震、原発事故の前日にも該当する。その中で、人は子を産み、人を愛し憎み傷つき、また、勇気を奮い起こすのです。
37	沈黙	遠藤周作	キリタン弾圧下の長崎。信仰に救いを求める極貧の隠れキリタン農民とポルトガル人司祭、彼らを拷問する役人。信仰を守るために殉教する農民、何故、神は沈黙を守るのか悩む司祭。別名の古狸庵先生のユーモア小説も好きですが、最も感銘を受けた小説。
38	シーボルトと鳴滝塾：悲劇の展開	久米康生	鎖国時代、長崎出島のオランダ商館医に着任したシーボルトは本当はドイツ人。出島を出て、わが国に初めて当時の先進国の医学その他の科学を導入するために開設した「鳴滝塾」の諸々の話。シーボルトの息子は日本の国際赤十字参加に貢献しています。
39	解夏	さだまさし	解夏く「ケ」って何と読む？と思って手に取ったら、「精霊流し」のさだまさし作。解夏とは仏教行事を示す言葉ですが、この小説はパーフェクト病で東京から長崎に帰ってきた教師の話、ちょっと純愛風ですが、しみみりします。
40	韃靼の馬	辻原登	対朝鮮外交を担う対馬藩の若き藩士の波乱万丈の人生を描く国際小説。史実か創作か！藩存亡を担う密命を果たすが追われ朝鮮へ。その地の人として再訪した祖国。かつて想いを寄せた女性を一瞥だにせず去る克人を乗せた帆船。しびれました。
41	医療福祉の祖 長与専斎	外山幹夫	“Hygiene”を「衛生」と云う語をつくるなど、わが国近代医療衛生福祉制度の父は30歳で長崎精得館(現長崎大医学部)医師頭取(病院長)、渡欧し独蘭の医学衛生行政を視察、初代文部省医務局長、東京医学校(現東大医学部)校長などなど。
42	くちびるに歌を	中田永一	五島列島の、ごく普通の中学生の、ちょっとした部活の話でもあるのですが、描かれている個々の普通の人間が素晴らしい。自然の中のおおらかな生き方、今の都市型生活では失われがちな人間と自然の絆でもあります。本屋大賞も納得、泣けました。
43	長崎ぶらぶら節	なかにし礼	主題は、長崎芸者愛八<アイハチとよむ>と市井<セイイ>の学者古賀十二郎が埋もれていた長崎の歌/民謡「ぶらぶら節」を発掘記録する経過なのですが、その間の愛八の情に詳しい行動はほとんど実話のようです。読み出したら止まりません。そして泣けますよ。
44	この子を残して	永井隆	自ら被爆しながら救援にあたり、小屋のような家に伏せたまま本書とそれに先立つ「長崎の鐘」を書かれたクリスチャンで放射線科医師永井隆博士の写真は衝撃的でした。あらすじは http://www.aozora.gr.jp/cards/000924/files/49192_39848.html で読めます。
45	祭りの場	林京子	被爆者の心身の苦悩、それに何の痛みも感じず、安穩に生きる大勢(の中の私)。東日本大震災でも同じではありませんか？安樂な一生を非難すべきではありませんが、他者の痛みに関心で、絆といっても通じません。短編ですが、重い本です。
46	長崎蘭学の巨人：志筑忠雄とその時代	松尾龍之介	日本語の中の外来語の多くはオランダやポルトガル語に由来しますが、それらを作ったオランダ語通詞(通訳)のお話。「お転婆」も外来語でオランダ語のオンテンパー(御し難い)が語源。この方、博学でニュートン力学の大系「プリンキピア」をわが国に伝えた人でもあります。
47	まぼろしの邪馬台国	宮崎康平	日本最古の統治者は女王卑弥呼、では、その王国はどこにあったか？考古学ってロマンですね。それを実生活でなぞった盲目の実業家と支えたパートナーの記録でもあります。吉永小百合と竹中直人の映画もよかったです、文字で読むほうが面白いです。
48	69 sixty nine	村上龍	とにかくバカバカしいほど面白かったです。駆け出し医師だった頃、全共闘とか全学連とかに自分たちがかわっていた時代、長崎・佐世保の高校生の反骨ブリーにあきれました。著者の「限りなく透明に近いブルー」や「半島を出よ」とかとは異質な青春小説ですが...
49	からゆきさん	森崎和江	19世紀後半の島原半島、貧しさ故に東南アジアに出稼ぎしsex workerとして働いた日本人女性を「からゆきさん」という。男性は「からゆくどん」。宗像在住の著者が指摘しているのは、過去の日本ではなく現在の世界の女性問題、貧困と健康、グローバルヘルスでもある。
50	ふおん・しいほとどの娘	吉村昭	「三陸大津波」も書いた著者は本来歴史ドキュメンタリー作家。江戸時代末、日本調査使命を帯びて長崎に来たドイツ人医師シーボルトと遊女の間、後年日本初の女性医師となる娘、稲が生まれる。父が国外追放後も、産婦人科医を目指す、ホト、色々事件がありました。
51	苦海浄土	石牟礼道子	仏教用語の「苦界(すべての人々の苦しみが無限なことを海に例える)」と「浄土(清浄で清涼な世界)」を並列した題名の本書、衝撃を受けない人はいない。昭和40年代の水俣でみた腰の萎えた猫、何も出来なかった不甲斐ない自分・・・大震災も同じだが。

No.	書名	編著者名	一言コメント
52	マイネカルテ：原田正純聞き書き	石黒雅史	Mine Karte(独。私の診察録)は「水俣病」の解明に一生を捧げられた原田先生への聞き語り。数年前、本学特別講演をお願いした際にお目にかかった先生は柔和そのもの、何が先生を激しく駆り立てたのか…本学の人道に通じる先生の思いを読んでほしい。
53	水俣 MINAMATA	ユージン・スミス、アイリーン・スミス	同じものではないですが…見てください。
54	北里柴三郎：雷(ドンネル)と呼ばれた男	山崎光夫	破傷風抗毒素を発見し、第1回ノーベル医学生理学賞候補でもあった日本の細菌学の父、生家は記念館として熊本県阿蘇郡小国町にあります。早くから予防医学の重要性を指摘されましたが、恩師との学問的不一致から不遇な生涯でもありました。
55	汀女句集	中村汀女	「春の猫もどりに来しかば 迎へけり」。春は猫の恋の季節、新聞の俳句欄などで拾い読みしていましたが、日常生活の中からの題材が多いとか、だからこそ親しめるのでしょうか。最後は東京ですが、ご出身は熊本、大きなトンボ・カネの写真を思い出します。
56	草枕	夏目漱石	以前の千円札は漱石。ネコ外としては「吾輩は猫である」もありますが、ここは舞台が玉名市の本書を。「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。」は冒頭の一説。気難しい方だったこと、何となく判りますね。
57	水俣病50年：「過去」に「未来」を学ぶ	西日本新聞社編	水俣病公式認知から50年目の2006年、西日本新聞が被害者側加害者側さらに行政の立場をも主催して連載したものをまとめたもの。近代化、高度経済成長の陰の環境汚染を追及しています。新聞協会賞や石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。勉強できます。
58	東の国から	ラフカディオ・ハーン	ギリシャ人ラフカディオ・ハーンは松江ほど熊本は好きではなかったようですが、日本と日本文化は好き。日本人が気付かない日本文化を外国に紹介しましたが、何故、東の国？拠点が祖国のあるヨーロッパなのですね。そう云えば、日本はfar east極東…
59	阿部一族	森鷗外	津和野藩御典医という名家の跡取り陸軍軍医総監森森林太郎と、繊細で密な文筆家森鷗外は何処でどのようにスウィッチされるのでしょうか。鷗外作品では、舞台が京都の「高瀬川」が一番好きですが、ここでは江戸時代初期の肥後藩での事件を。
60	五足の靴	与謝野鉄幹ほか	1907年7月28日～8月19日、明治の文豪与謝野寛がまだ学生の太田正雄・北原白秋・平野万里・吉井勇らを連れ九州を旅した際の旅日記(紀行文)。簡潔な文で、博多・柳川・佐賀・唐津・佐世保・平戸・長崎・大江村(天草)・熊本・阿蘇・三池が。
61	源おぢ	國木田独歩	「源おぢ」を知ったのは同名佐伯産のお饅頭。明治時代、同地に教師として赴任した独歩を偲んでつくられたそうです。文語体です。妻は美しかりし。名を百合<ユリ>と呼び、大入島<オオユヅマ>の生まれなり…など声を出して読んで下さい。
62	海神丸	野上弥生子	百歳直前、「死なない気がする」とおっしゃった著者。実話に基づいて書かれたらしいというフォト恐ろしい話でもあります。漂流した船の中で何があったのか、誰かが食料になったのか、1920年代に、このような極限状態を書かれた動機は何なのでしょう。
63	蝸<ヒグラシ>ノ記	葉室麟	蝸は燃え尽きる命を示唆。事件の代償に幽閉中の元郡奉行監視を命じられた祐筆<ユウヒツ>、武家の秘書役。前藩主側室との不義密通の廉<カ>で10年後の切腹と家譜編纂を命じられた人と監視者、命に代えてまもるべきものは何か、一気読みして下さい。
64	広瀬淡窓	深町浩一郎	おひな様や天領水で有名な日田にある咸宜園<カンキエン>。みなよろしの意<イ>は、1805年、淡窓が開いた男女を問わず「皆」勉強すること「よろし」という先駆的私塾。2階の小部屋に座ると、淡窓先生のお声が聞こえてくるような気分になります。
65	福翁自伝	福澤諭吉	一万円札の肖像は、幕末から維新にかけ民の立場で教育の礎を作った福沢諭吉、豊前中津の出身。とても偉い人ですが、ハチャメチャであり、また、この時代として大いにグローバルでした。また文語調だった時代に、口語体で書かれた自伝。面白く読めます。
66	荒馬物語	戸川幸夫	イリモチヤマネコが新種として認定されたきっかけは、本書の著者が、西表島で猫の頭蓋骨を入手されたことでした。1965年、間もなく50年!! 佐賀県出身の著者は、動物文学というジャンルを確立されました、その中で一番美しい本…と思います。
67	しゃぼん玉	乃南アサ	宮崎県の限界集落椎葉村。生きるために金品を奪う、そのための手段が人を傷つけること、何ら罪悪感がない主人公が、村の老婆宅に孫<トキ>で住み着く。そして…自分と向き合い葛藤しながら、しゃぼん玉のようなはかない生き方を考える。ウーン、ありきたり？
68	口語訳古事記 完全版	三浦佑之【訳・注釈】	解釈無用、日本最古の古典の現代訳。一度は見ておきたい。
69	若山牧水歌集	若山牧水	宮崎の現日向市の出身、明治末から大正期の情熱的歌手。結核死が多かった文学者には珍しく大酒のみで肝硬変で43才で亡くなる。「死にがたし われみずからのこの生命<イノチ> 食み残し居り まだ死に難し」などと読みながら、毎日1升もおおっていたとか。

No.	書名	編著者名	一言コメント
70	ホタル帰る：特攻隊員と母トメと娘礼子	赤羽礼子	特攻隊って知っていますか？ 出撃前夜、宮川軍曹は、死んだらホタルになって帰ってくると云って出撃。その夜、一匹のホタルがきた。戦争末期の知覧の軍指定食堂経営者鳥浜トメさんの特攻隊員への対応を娘が書いたもの。泣かない、と思っても涙が出ます。
71	西郷隆盛伝説	佐高信	維新の英傑西郷南洲とは誰？、でも東京上野恩賜公園のサイゴ一サンは知っている。鹿児島では神様(のよう)。日常の西郷さんは情の人だが、考えていたのは日本という国、世界の中の日本という未来だったようだ。大災害の後の今、西郷さんならどうされるだろう。
72	西郷隆盛	池波正太郎	西郷は真の政治家だが世に横行する政治家でなく、詩人の魂をもつ理想家・教育家。また軍人ではない、という。日本の近代化革命=明治維新を平和裏にすすめながら、なぜ、西南の役を起こしたか？維新の大物西郷隆盛の伝記小説だが維新史でもある。
73	奇妙な国	島比呂志	「奇妙な国」ってどんな国？ 鹿児島県鹿屋市国立ハンセン病療養所「星塚敬愛園」を、そこで大半の人生を過ごした著者は外部交流を絶たれていたことをこう呼んだ。本書は、日常を淡々と描いているが、他のハンセン文学者北条民雄と対比して読むべきかもしれない。
74	浮雲	林芙美子	戦争下、義弟との不倫を逃れ安南(今のベトナム)に渡った主人公は、また、そこで出会った男性との関係を深める。荒廃した東京に帰ったものの厳しい現状から屋久島に行き着く。究極のオナとオコの関係、大人の恋愛小説、と友人の編集者の言ですが。
75	薩摩スチューデント、西へ	林望	林望ことリポウ先生は本職近世書誌学者、でも小説家として拝読しています。本書は、明治維新後、いち早く変化を実践した薩摩隼人らの留学記。単なる学問修得ではなく、日本をどう造るか、愛国心に基づいた学習だったと思います。勉強になります。
76	天璋院篤姫 上・下	宮尾登美子	NHK大河ドラマでイメージが固まった篤姫は養父薩摩藩主の密命を帯びてお嫁入り、問題多い夫と時代にあわない幕府政治の最後をみとり、徳川家の面子をまもった聡明な女性。本の中の篤姫も素敵、外への関心、固い信念、しかし情に厚い知的な女性でした。
77	大造じいさんとガン	椋鳩十	小学5年教科書にのっている本書は両羽の白い羽毛のある賢いカンと老年のガン狩人のちえ比べです。著者は鹿児島県の図書館長として、子どもに本を読ませる活動を広げられたことで有名、そして猫好きで白い猫を飼っておられたそうですが、これは余計。
78	統べる島	池上永一	八重山諸島の8島を舞台にしたファンタジーだが、恐ろしげな話が多い。この地域そのものをファンタジックに見がちだが、広大な海のちっぽけな島々、実際はそれほど軟でない。ただ8つの物語は最後に統(す)ばり、やはり神秘的・・・ファンタジーだと思います。
79	南の島のティオ	池澤夏樹	大学で物理学専攻の著者初の子どものための作品。著者は転々とする中、ある時期沖縄にも住まわれましたが、本書は、南の島のホテル経営者の息子ティオの不思議な経験です。主題は美しい自然でもあり、少年でもあり、ティオに起こる不思議でもあります。
80	トロイメライ	池上永一	トロイメライ(夢見ごっこ)は、著者の前作「テンペスト」が首里城、琉球王朝を描いているのに対し、那覇の庶民を対象としており、やや読みやすいというか人情的で理解しやすい。ただ、本格的琉球王朝物語はテンペストです。
81	小説 琉球処分 上・下	大城立裕	そもそも琉球処分って何？明治維新後廃藩置県では鹿児島県管轄となった琉球は、古来、島津藩と明や清にも属しつつ微妙な独自の立場を守ってきたが、本書は、琉球王家の最後の顛末を描いている。その後の米軍の存在、オキナワはまだ終わっていない。
82	つるかめ助産院	小川糸	男にふられた風来坊女性が訪れた沖縄の島で妊娠を知り、成り行きでその地の助産院で母になる。実際にあった？それより自然経過にゆだね生を見守るつるかめ助産院の存在、案ずるより産むがやすしとは申しませんが、機械化と保健医療の質は大いに違う。
83	メタボラ	桐野夏生	都会の生活から逃亡、落ちこぼれて？沖縄にきた2人の若者の話。付いてゆくのがしんどい本でしたが、オキナワ、ワーキングプア、ドメスティックバイオレンス、集団自殺、ニート、読まねばならないと思いました。なぜ沖縄なのでしょう、でもやっぱりオキナワでない。
84	ていだかんかん：海とサンゴと小さな奇跡	金城浩二	沖縄出身の1期生が、サンゴが危ないの、と云っていました。その沖縄のきれいなサンゴを取り戻すために、サンゴの養殖移植、世界初の人工産卵に成功し人間力大賞を受賞された金城浩二ご夫妻のご苦労を描いたノンフィクション。映画もあります。
85	沖縄だれにも書かれなかった戦後史	佐野真一	日本の繁栄のためにどこかにしわ寄せ、犠牲が押し付けられる。と漠然と知ってはいても、本当の戦後沖縄の歴史は知らないまま。レンガの丘では一色に塗られた基地、パレスチナを思い出した。でも、沖縄を支えてきた人々はいる。それも知りたい。
86	西表やまねこ診療所	岡田豊	都市型病院型の現代医療に飽き足らず、総合病院外科医から西表西部診療所長になった岡田先生。それもこれも医療なのですが、自分が本当にやりたいこと、やるべきことは何、との迷い、医師になった原点は何とも。お目にかりたいですね。そして西表ヤマ猫にも。
87	琉球布紀行	澤地久枝	20年来存じ上げている著者は和服だけでなく、また日本だけでなく布ものに詳しい。戦後史研究に2年余沖縄に滞在された間、現地の染織作家を訪ね、その作品に触れ、伝統的な技術と自然に根ざした美しい色合いを守り続ける織手たちの物語をつづられている。

No.	書名	編著者名	一言コメント
88	琉球の風	陳舜臣	No.81の「琉球処分」に先立つ17世紀の話。中国は明からの冊封使を迎えた琉球では、おごそかで華やかな儀式の陰で、日本側徳川政府、薩摩藩と明の間の微妙な関係調整が講じられていた。アフリカの独立…を思い出させる壮大な歴史物語。
89	鉄の暴風：沖縄戦記	沖縄タイムス社編著	第二次世界大戦時、わが国領土では唯一地上戦が行われ、多数以上の国民が亡くなった沖縄。ひめゆりの塔などを知っているが、壮絶な戦争の記録は読みたくないけど読んでおかねばならない…現地のメディアがまとめた記録です。
90	はるかニライ・カナイ	灰谷健次郎	「太陽の子」や「兎の眼」を読んだ人は多いでしょう。10年以上前ですが、同著者の新作子ども用の物語。ニライ・カナイの神さまに見守られ暮らす沖縄の人々の生活とほんわかした優しさの中で、都会の学校からドロップアウトしたひとりの少女がよみがえります。
91	オキナワの少年	東峰夫	関係ないですが、著者は路上生活を含め本当にハチャメチャな暮らしぶりです。最近では生活保護とか。本書は、米兵向けsex workを生業とする家の少年の暮らしを描いています。ちょっと判りにくい沖縄方言が雰囲気でもあり、重い主題ながら一気に読み通せます。
92	豚の報い	又吉栄喜	沖縄そのものの話。スナックに豚が闖入、スタッフ(女性)一人が失神(マブイ魂)を落とすと云う。その厄落しに御嶽(ウチキ)に向かう道中の出来事が本書の物語りですが、出てくる女性の皆が、色々な経験をして傷ついているものの、みな健気に生きていますと実感します。
93	なんくるない	よしもとばなな	最初の「キッチン」が読みづらく、長く読みませんでしたが、この短編集は素直に読みました。お名前を外ウーを入れたり、人を使ったようなペンネームですが、海外での評価は高く、国際的小説家です。今、色々、読み出しましたがユルキャラ…小説、今の時代に必要なですね。
94	沖縄ノート	大江健三郎	沖縄(問題)は解決していないのに「内地」の人は沖縄を忘れようとしている、と現地の知人に云われたことがありました。その前に、問題の本質を知らない…とも思います。先般、裁判で決着がついたこの沖縄ノート「問題」もその一つにすぎませんが……
95	接近	古処誠二	ため息をつきながら読み進めた本です。最後のページ、「銃弾は少年の腹部を貫通し、背中に回されたサカノの手は、少年の温かい血を指の間からこぼした」で、何かが吹っ切れた思いです。極限状態の沖縄…と帯にあります。信頼と裏切りの何とはかない関係か。
96	ナミイ！：八重山のおばあの歌物語	姜信子	石垣島の実在の高齢歌手ナミイおばあの物語。映画「ナミイと唄えば」の原作。三線(サンシン)と声で生計を立てたナミイおばあは、歌は神さまを喜ばせるものと信じているから、人々を感動させる。高齢者は保護の対象? いえいえ、神へのメッセンジャーですね。
97	ハイドウナン	藤崎慎吾	著者は米リーランド大環境科学修士課程修了。2032年、未曾有の地殻変動で南西諸島に沈没の危機。資源優先の政府と地殻変動を阻止するためのプロジェクトを始める科学者、大地の怒りを鎮める14番目の御嶽が必要と巫女。面白いですが、大作。
98	イリオモテヤマネコ	今泉吉典	1960年代、新種の猫といっても野生のヤマネコ発見。琉大高良鉄夫教授、動物作家戸川幸夫氏、国立博物館動物部長今泉吉典博士らが現地の人々の協力を得て、死体、骨格さらに生け捕りし、時間をかけて新種であると認定されるまでの経過です。
99	邪馬台国・日向への道	山田昌行	各地のガイド本もある著者が出版社退職後に、様々な邪馬台国本や魏志倭人伝を読み解き直し立てられた邪馬台国の位置についての大胆な仮説ですが、読んでみると成程と思うところが多いのです。で、宮崎に行ってみると、さらに納得できるのですが…
100	卑弥呼の使い：魏志倭人伝を読み解く	鈴木一郎	著者はかのイロ-と同名同名ですが、農林省官僚から中津市長を務められたお役人。その間のご研鑽が歴史学と考古学をミックスして新たに魏志倭人伝を読み解き、3世紀のわが国、邪馬台国ではなく邪馬「壱」国をめぐる倭諸国や中国との関係を物語られました。

特別推薦書

美智子皇后陛下 「橋をかける：子供時代の読書の思い出」

2012.4 日本赤十字九州国際看護大学